

## 1. 長期成長ビジョン

味のちぬやグループは、冷凍食品業界のリーディングカンパニーとして「新たな食の価値を通じて地域社会と共生し、豊かな生活と持続可能な未来に貢献する信頼される食品製造グループ」を目指す。

### 長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

#### ①国産原料と地域資源を最大限に活用した「安全・安心・高品質」な食品の提供

～北海道・四国等の地域の原料と人材を活かし、食品の地産地消を推進。健康志向やプレミアム志向の高まりに応える高付加価値冷凍食品を国内外に安定供給出来る体制を確立する～

#### ②グループ横断の生産・物流・販売一体型モデルによる競争力の強化

～仕入・生産・物流・販売を担う各グループ企業が連携し、川上から川下までの一気通貫のバリューチェーンを確立。スマートファクトリー化・省力化・物流最適化により、生産性向上とコスト競争力を実現する～

#### ③持続的な賃上げと働きがい向上を実現する成長企業体への進化

～継続的な労働生産性向上と人材投資を通じ、従業員の賃上げを実現。多様な人材が活躍出来る環境を整備し、「選ばれる企業グループ」として、地域の雇用創出・所得向上に貢献する～

#### ④デジタル技術・環境配慮型経営の強化で社会的価値を創出

～AI・IoTを活用した生産管理や需要予測を通じて、フードロス削減・物流効率化を促進。環境配慮型の商品開発を進め、持続可能な食の未来に貢献する～

### コンソーシアム全体の売上成長目標（～2030年）

- ・売上高成長率176.8%（直近期比）
- ・売上高増加額261億円（直近期比）

### コンソーシアム全体の賃上げ目標（累計増加率）

- ・109.7%（直近事業年度～基準年度）
- ・118.0%（基準年度～事業化報告3年目）

### 外発的動機

#### ・急拡大する冷凍食品市場とプレミアム志向の高まり

～冷凍食品の世界市場は、オンライン小売の急速な成長や女性の雇用率の増加等を背景として、2030年までに3,840億米ドル規模（2025年からのCAGR5.78%）に成長すると予測されている。国内冷凍食品市場も同様に成長が見込まれ、2030年までに約2兆円（2025年からのCAGR6.00%）での成長推移を見込む。特にプレミアム志向の高まりにより、国産原料使用の冷凍食品が選ばれる割合は約7割～

#### ・地域農業の担い手不足・異常気象等による収穫量の減少

～北海道内の農家の高齢化率（65歳以上）は約50%であり、担い手不足による原料の収穫量減少リスクが顕在化している。特に、小規模農家は大型設備への投資が困難で、離農・廃業が進んでいる。また、近年の異常気象等により、収穫面・保管面に課題を抱えている～

#### ・人手不足・高齢化の進行

～冷凍食品需要が高まる中、食品製造業における有効求人倍率は約3.05倍となっており、生産性低下リスクが高まっている～

### 内発的動機

#### ・食の安定供給に対する使命感

～近年、異常気象の頻発化等により、原料不足リスクが高まる中、冷凍食品の需要急増に対して、安定した食の供給を実現することが社会的責務と認識している～

#### ・地域農業の未来を守る想い

～農業の担い手不足やコスト上昇等の影響で北海道の農家が減少傾向にあり、食品加工企業として、農業と一体となり、持続可能な生産体制を構築することが重要～

#### ・従業員の賃上げ・働きがい向上への決意

～給与水準の向上と働きやすい環境を提供することが経営の使命～

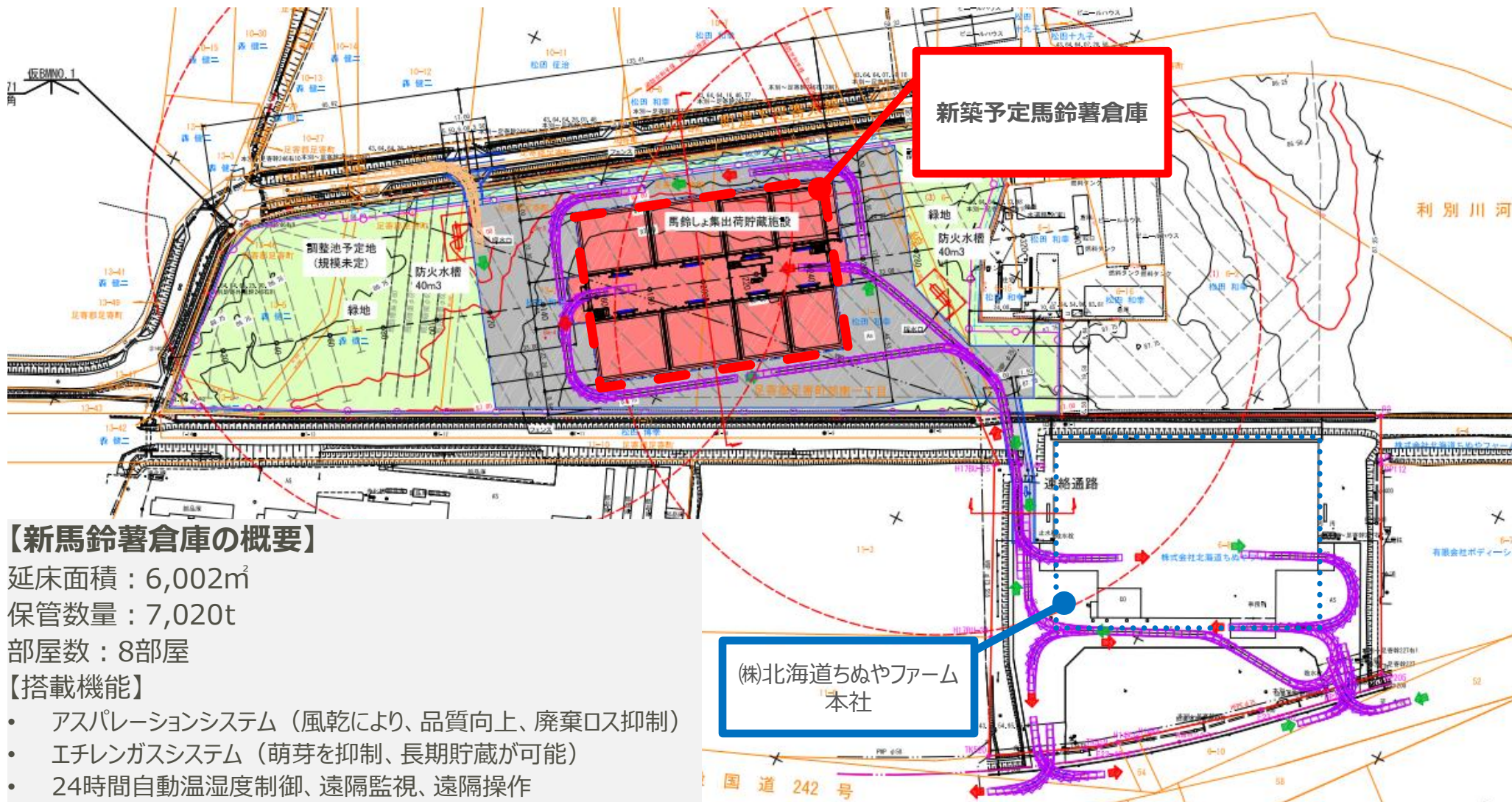
2.補助事業の概要①

倉庫新設と省力設備等の導入により、供給力強化と生産性向上を図る。保管・物流コスト削減、作業工数削減により、労働生産性の大幅向上及び継続的な賃上げと地域農業支援を通じた持続可能な成長を目指す

補助事業の 背景・目的	● 冷凍食品市場の急成長に伴い、グループ全体で冷凍コロッケの生産・保管能力が限界を迎えている。特に外部倉庫への依存による物流コストの増加や保管品質低下による収益悪化リスクが顕在化している。			事業費 (補助額)	41億円 (11億円)		
	● 異常気象の頻発や農家の担い手不足により、地域農業の収穫量減少・原料供給の不安定化も進行。 ● 更に、製造現場では、人手不足による現場負荷増大・生産効率低下が顕著な状況。 ● 本事業は、これらの課題を解決する為、馬鈴薯保管倉庫の新設・省力化設備等の導入を通じて、供給力を強化し、 <b>持続的な地域貢献・労働生産性向上・賃上げを実現させる。</b>						
設備投資の 内容	投資内容	投資額	課題解決内容	左記の取組により、一人あたり付加価値額の大幅向上と、持続的な賃上げ原資の確保が可能となり、 <b>生産性と働き方改革の両立を実現する。</b>  【各投資内容のイメージ・図等について】 ● 馬鈴薯保管倉庫 P17・18記載 ● 各種生産設備 P19記載			
	馬鈴薯保管倉庫 (無線工事等含む)	32.7億円	外部倉庫依存による保管・物流コストの削減、品質劣化、廃棄ロスの抑制、供給力不足の解消が可能。地域農家の収益安定化に貢献し、持続可能な供給体制を確立出来る。				
	スパイラル冷凍設備	3.5億円	冷凍能力が約1.5倍化し、供給力増強、商品ロスの削減、受注機会の損失防止が可能。				
	遠赤自動フライヤー	0.6億円	加熱工程の自動化・均一化により、品質安定化、生産量増加、作業時間削減。				
	スチームピーラー	0.9億円	自動化により、人手削減、歩留まり改善、原料ロス削減により、利益率向上。				
	逆ピロー包装機	1.3億円	包装自動化により、作業時間、人手削減、出荷効率・包装精度向上。				
目標値		コンソーシアム全体		(株)北海道ちぬやファーム		ちぬや冷食(株)	
	項目	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度+3年後)	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度+3年後)	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度+3年後)
	労働生産性 (単位：万円/人)	2,804万円/人	4,523万円/人 (年平均上昇率+17.2%)	3,357万円/人	4,933万円/人 (年平均上昇率+13.7%)	2,771万円/人	4,498万円/人 (年平均上昇率+17.5%)
	従業員1人あたり給与 支給総額 (単位：万円/人)	342万円/人	406万円/人 (年平均上昇率+5.9%)	325万円/人	386万円/人 (年平均上昇率+5.9%)	343万円/人	407万円/人 (年平均上昇率+5.9%)
	役員1人あたり給与 支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均上昇率+5.9%)	-	- (年平均上昇率+5.9%)	-	- (年平均上昇率+5.9%)
	補助事業に係る従業員数 (単位：人)	220人	268人	10人	13人	210人	255人



## 新馬鈴薯倉庫の配置図



### 【新馬鈴薯倉庫の概要】

延床面積：6,002m<sup>2</sup>

保管数量：7,020t

部屋数：8部屋

### 【搭載機能】

- アスプレーションシステム（風乾により、品質向上、廃棄ロス抑制）
- エチレングスシステム（萌芽を抑制、長期貯蔵が可能）
- 24時間自動温湿度制御、遠隔監視、遠隔操作
- 高換気仕様による省エネ性能

2.補助事業の概要①-2

新馬鈴薯倉庫の平面図





## 導入予定生産設備イメージ

スパイラル冷凍設備



遠赤自動フライヤー



スチームピーラー



逆ピロー包装機

